

平成 27 年度事業報告

(平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで)

1. 庶務報告

(1) 総会

平成 27 年度通常代議員総会を平成 27 年 6 月 5 日、奈良春日野国際フォーラム 薨 (奈良市) において開催し、次の議案を可決した。

第 1 号議案 平成 27・28 年度理事の選任の件

第 2 号議案 平成 27・28 年度監事の選任の件

第 3 号議案 平成 26 年度収支決算書の件

(2) 理事会、委員会等の開催 (メール審議)

平成 27 年度 (平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日) は、以下の通り開催した。

代議員総会 6 月 5 日

理事会 4 月 29 日 6 月 5 日 12 月 13 日 2 月 7 日

幹事会 6 月 4 日

業務担当理事会 4 月 21 日 6 月 13 日 11 月 15 日 1 月 24 日

編集委員会 6 月 25 日 9 月 7 日 11 月 5 日 12 月 22 日 3 月 15 日

(5 月 8 日) (5 月 22 日) (9 月 24 日) (1 月 18 日) (1 月 25 日)

トピックス等担当委員 6 月 6 日

選挙管理委員会 6 月 25 日 9 月 7 日 10 月 1 日

学会賞選考委員会 2 月 7 日

タスクフォース委員会 6 月 6 日 7 月 22 日 11 月 13 日 2 月 9 日 3 月 1 日

3 月 24 日

調査委員会 4 月 21 日

将来構想検討委員会 9 月 12 日 (3 月 15 日)

国際交流委員会 12 月 13 日

(3) 会員等の状況

1) 会員の異動状況

	27.4.1	入会	退会	28.3.31	年度末退会
正会員(名)	708	17	8	717	38
学生会員(名)	24	32		56	27
団体会員(件)	130	0	3	127	5
賛助会員(件)	36 (59)	1	(1)	37(59)	2 (2)

2) 役員等(H28.3.31 現在)

名誉会員	13 名
理事	16 名
監事	2 名
幹事	24 名
功労会員	80 名
代議員	112 名
賛助会員幹事	22 名

3) 委員会等 (H28.3.31 現在)

学術・広報委員	6 名
国際交流委員	9 名
編集委員	11 名
JNSV 編集委員	11 名
トピックス等担当委員	37 名
タスクフォース委員会	18 名

将来構想検討委員会 11名

4) 代議員

立候補および推薦の受付を平成27年7月25日(土)～平成27年8月25日(火)を実施し、112名の候補者が集まり、平成27年9月上旬に正会員(713名)へ投票用紙を送付した。平成27年9月15日(火)～平成27年9月25日(金)に届いた投票数は、366票(51.33%)であった。平成27年10月1日に開票した結果、代議員候補者全員が信任された。

5) 功労会員

平成27年度第3回理事会の議決により次の3名が功労会員として承認された。

氏家隆氏、武藤徳男氏、八木年晴氏

(4) 研究業績の表彰、奨励

1) 学会賞受賞者

堀尾 文彦 (名古屋大学大学院生命農学研究科 教授)

「ビタミンCの生合成制御と生体防御・疾患に関わる生理機能の解析」

宮澤 陽夫 (東北大学大学院農学研究科 教授)

「トコトリエノールの腫瘍性抗血管新生作用と食品応用に関する研究」

2) 奨励賞受賞者

加来田 博貴 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 准教授)

「レチノイドX受容体を標的とした創薬に関する研究」

榎原 周平 (兵庫県立大学環境人間学部 助教)

「ビタミンB12欠乏によるアミノ酸代謝異常とその分子的作用機序の解明」

3) 企画・技術・活動賞受賞者

上田 恭義, 植田 尚宏, 北村 志郎, 久保 博司 (株式会社カネカ)

「還元型コエンザイムQ10の実用化に向けた研究開発」

杉本 雅史, 北吉 正人, 高内 誠二, 大森 真治 (武田薬品工業株式会社)

「ビタミンB1誘導体フルスルチアミンを核とする一般用医薬品の創製」

4) 功労者表彰受賞者

大石 誠子 (公益財団法人応用化学研究所所長)

小野 繁 (岩手医科大学名誉教授)

小倉 良平 (久留米大学名誉教授)

永津 俊治 (名古屋大学名誉教授・東京工業大学名誉教授・藤田保健衛生大学名誉教授)

前川 昭男 (東京農業大学名誉教授)

5) 学生優秀発表賞受賞者

青 未空 (京都女子大学大学院家政学研究科)

「クローン病患者におけるビタミンB12及び葉酸欠乏調査」

加藤 綾華 (東北大学大学院農学研究科)

「ビタミンK2によるPXRを介した薬物代謝酵素遺伝子発現調節機構の解析」

高平 梨可 (富山県立大学大学院工学研究科)

「異物抱合酵素発現酵母を用いたビタミンE代謝物の抱合化反応の解析」

戸田 結奈 (近畿大学大学院農学研究科)

「植物細胞内のフラビン代謝制御に関与する新規因子の探索」

福田 詩織 (徳島大学大学院医歯薬学研究部)

「成長期における食餌性リンによる α -klotho発現制御」

(5) その他

- 1) 平成 27 年 12 月 15 日に加藤勝信大臣と一瀬宏理事他が面会し、「葉酸の適切な摂取量確保による先天異常予防に関する提言」の要望書を提出した。
- 2) 「第 3 回消費者庁検討会：機能性表示食品制度の関与成分に関する検討会」に 阿部皓一理事、津川尚子幹事が出席し、意見を述べた。
- 3) 将来構想検討委員会の設置

2. 学術・広報報告

(1) 年次大会、講演会等の開催

日本ビタミン学会第 67 回大会は、平成 27 年 6 月 5 日から 6 日までの 2 日間、中野長久名誉大会委員長、重岡成大会委員長によって、奈良春日野国際フォーラム 薨 (奈良市) を会場として開催された。大会参加者数は、408 名であり、学会賞等の受賞講演、口頭による一般演題 112 演題発表 (うち学生発表 48 演題)、教育講演、文化講演、シンポジウムが行われた。

1) 教育講演

「プロスタグランジン D2 に学ぶ：睡眠研究から筋ジス治療薬の開発まで」
裏出 良博 (筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構教授)

- 2) 文化講演 「古典にみる「橘」について—神々の原郷を知る—」
千田 稔 (奈良県立図書館情報館館長)

3) シンポジウム I 「ビタミン・バイオフィクターの男女間での栄養学」

はじめに 山地 亮一 (大阪府立大学大学院)

ビタミン K による性ホルモン産生促進

白川 仁 (東北大学大学院農学研究科)

ラットにおけるビタミン E 代謝の性差

竹中 麻子 (明治大学農学部)

β -クリプトキサンチンと生活習慣病リスク-最近の疫学的知見から-

杉浦 実 (農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所)

柑橘系バイオフィラボノイドによる骨量減少抑制作用の性差

上原 万里子 (東京農業大学応用生物科学部)

ダイゼインと骨格筋の性差 山地 亮一 (大阪府立大学大学院)

おわりに 乾 博 (大阪府立大学大学院)

4) シンポジウム II

「Global Trend in Recent Health Claim System and Research Topics for Nutrients」

(最近の健康強調表示システムと栄養機能研究の世界的な動向)

—新しい栄養素の健康機能研究とその制度のイノベーション—

はじめに 阿部 皓一 (武蔵野大学)

ビタミンの有用性(The Benefits of Nutritional Supplements)

太田 好次 (藤田保健衛生大学医学部)

食品の新たな機能性表示制度

(Recent Functional Food Labeling System in Japan)

山内 淳 (国立健康栄養研究所食品保健機能研究部)

適切な葉酸の 1 日推奨量の設定と摂取の必要性

(Folic Acid - a need of optimal intakes and setting of the RDI)

水野 慎一郎 (DSM ニュートリションジャパン本部)

Special Lectures

・ Global Trend in Nutritional Health Claim and Labeling

(グローバルな栄養機能表示) 天ヶ瀬 晴信 (日本アムウェイ株式会社)

- ・ Challenges and Resources in Dietary Supplement Research: Role of NIH
(NIH の役割と栄養サプリメント研究の動向)

Dr. Paul Coates (NIH Director of the Office of Dietary Supplements)

代わりに 末木 一夫 (一般社団法人 国際食品協会)

(2) 市民公開講座

平成 27 年 10 月 17 日(土)に、高田二郎実行委員長によって、福大メディカルホールにて『「たっぷりビタミン・バイオフィクター学」－これから教科書にのる可能性のあること－』をテーマとして開催された。研修認定薬剤師制度の単位取得講座に認定されたこともあり 薬剤師 67 名を含む、138 名の参加があった。

「体内のビタミン E 量を決めるタンパク質」

東京大学大学院薬学系研究科教授 新井 洋由

「日本の健康を支えたビタミン：ビタミン B₁ の発見と医薬品への応用」

武田薬品工業株式会社 ジャパンコンシューマービジネスユニット研究開発部

北吉 正人

「ビタミン E とコエンザイム Q₁₀ の新規生理活性と臨床応用」

鳥取大学医学部教授 松浦 達也

「ストレスと脳・神経とビタミン」

武蔵野大学薬学部 SSCI 研究分析センター長 阿部 皓一

(3) 共催・協賛・後援

1) 第 12 回アジア栄養学会議 (ACN2015)

公益社団法人 日本栄養・食糧学会 (主催)

平成 27 年 5 月 14 日～18 日にパシフィコ横浜で開催された「第 12 回アジア栄養学会議 (ACN2015)」を後援し、シンポジウムを開催した。

“Role of vitamins in prevention and treatment of diseases
and their recent findings”

Coordinator Dr. Yoshiji Ohta and Dr. Toshiaki Watanabe

Opening remarks Dr. Shigeru Shigeoka

New functions of fat soluble vitamin Dr. Naoko Tsugawa

Niacin and chronic kidney disease Dr. Yutaka Taketani

Folate and cancer prevention Dr. Karunee Kwanbunjan

2) 2015 年度市民講演会『美しく健やかに-ビタミン・バイオフィクターと共に-』 (協賛)

公益社団法人ビタミン・バイオフィクター協会 (主催)

平成 27 年 11 月 28 日 株式会社林原研究開発本部

3) シンポジウム「ビタミン等・栄養素の生理機能」 (協賛)

一般社団法人 国際栄養食品協会 (AIFN) (主催)

平成 27 年 6 月 8 日 社団法人東京アメリカンクラブ

4) 第 12 回国際メイラード反応シンポジウム (後援)

日本メイラード学会 (主催)

平成 27 年 9 月 1 日～4 日 東京大学伊藤国際学術研究センター

5) 第 13 回高付加価値食品開発のためのフォーラム (協賛)

日本食品機械研究会 (主催)

平成 27 年 9 月 4 日～5 日 大阪国際会議場

6) 第 7 回「栄養とエイジング」国際会議 (後援)

特定非営利活動法人 国際生命科学研究機構 (ILSI) (主催)
平成 27 年 9 月 29 日～30 日 東京大学弥生講堂 一条ホール

- 7) 第 3 回国際レチノイド研究会 (協賛)
日本レチノイド研究会 (主催)
平成 27 年 10 月 21 日～23 日 岐阜グランドホテル
- 8) 第 6 回 酵素学講習会 (酵素学ウインタースクール) (後援)
共同利用・共同研究『酵素学研究拠点』徳島大学疾患酵素学研究センター (主催)
平成 28 年 1 月 18 日～1 月 22 日 徳島大学蔵本キャンパス

(4) ホームページによる広報活動

各種事業の案内・募集等ホームページを積極的に活用し、一般市民、会員に有用な情報を常に提供している。また、一般、マスコミからのビタミンなどに関する質問に対応した。

3. 編集報告

(1) 学会誌「ビタミン」

平成 27 年度は、89 巻 4 号～90 巻 3 号、計 11 冊を発行した。

掲載論文は、総合論文 (8)、原著 (1)、資料 (1)、講座 (2)、研究論文紹介 (4)、ミニレビュー (10)、トピックス (25) コラム (1) である。

(2) 英文誌「Journal of Nutritional Science and Vitaminology」(JNSV)

公益社団法人日本栄養・食糧学会と共同編集し平成 27 年度発行：Vol.61-2～Vol.61-6、Vol.62-1 計 6 冊発行した。

(3) 「トピックス貢献賞」を新たに定めた。

トピックス貢献賞授与の目的は、ビタミン誌に掲載されたトピックス投稿において、ビタミン学研究所の進歩・発展のために貢献度が高いと考えられるトピックスを投稿した研究者に対して賞を授ける。

(4) 投稿規約の一部改訂

(5) 国立情報学研究所の電子図書館事業終了に伴い、J-STAGE への移行申請を行った。

(6) 「ビタミン総合事典」(朝倉書店)が、150 部増刷された。

4. 会計報告

次の件について検討し、理事会に諮った。

- (1) 平成 27 年度収支決算書類
- (2) 平成 28 年度収支予算書類
- (3) 公益社団法人ビタミン・バイオフィクター協会へ研究助成申請
- (4) 平成 28 年度市民公開講座 科学研究費補助金申請
- (5) ICC05-AEM2016 からの共催助成金申請

平成 27 年度事業報告 附属明細書

平成 27 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。